

不揃いな光

ゼリーの中に閉じ込められているようだった。身体が動かない。集中力も記憶力も落ちて何もできず、ひたすら横になる日が続いた。高校2年の春のことだ。いくつも病院を回り、ようやく出た医師の診断は、有機溶剤へのアレルギーだった。症状はシックハウス症候群に似ている。美大進学を目指して近所の小さな美術予備校に通い始め、籠もって油絵ばかり描いていたのが、悪化した直接の原因らしい。言われてみれば、以前からその兆候はあった。小学校の校舎の建て替え後、頭痛に悩まされたのもこのせいだったのだろう。

原因となる物質を避けるしか方法はない、という医師の言葉の意味するところは、鈍くなっている私の頭でもすぐに理解できた。油絵具が使えないなら実技での進学は断念するしかない。

幼い頃から絵が好きで、美術に関わる仕事に就きたいと思っただけだけれど実技に進む自信がなく、

という課題である。花びらや葉の形、布やテープが映り込んだ容器の表情など、よく観て描き込む作業の、なんと楽しく、心弾むことだろう。色鉛筆やインクで図鑑の絵を模写して喜んでいたらこれまでを思えば、むしろ自分に向いているとさえ感じた。

こうして日本画科を目指すようになったのだが、受験ではアクリル絵具の併用も多く、樹脂を原料にしたこの絵具も私の体質には合わなかった。自分が使わなくても周囲が使えば同じことになる。入試までしのげればと、やむを得ず有機溶剤用の防毒マスクをつけるようになった。

日本画の絵具は、顔料と染料、天然と人工のものに大別され、これらを接着剤である膠に溶いて、画面に定着させる。顔料である岩絵具は、天然の鉱物や人工鉱石を砕いたもので、その粒子の粗さによって、例えば群青の8番、13番、というように番号が振られ、数の小さいほど粒が粗く鮮やかに、大きいほど細かく淡い色になる。絵具の性質上、あらかじめ均一に混色して塗るのではなく、画面に一色ごとに重ねて色をつくる。下に塗った色が透けて、粒子が同居し、からみあうようにできた色には独特の光



《凍然》2010年 和紙、岩絵具、膠

迷いに迷った末、やはりどうしても絵が描きたいという強い思いで決めた進路を、突然諦めざるを得なくなったのだ。病院からの帰り道、初夏の光の中で濃くなりつつある緑の鮮やかさが疎ましかった。

勉強も手につかずくすぶっていたある日、日本画の画材、天然素材の膠と岩絵具なら、身体に負荷がかからないのではないかと思いついた。それまで油絵しか頭になく、観る展覧会も好きな作家も油絵ばかりで、特に現代の日本画に関する知識はほとんどなかった。それでも筆を持つて描けるならと、日本画コースのある美術予備校の夏期講習に参加した。初めて描いた題材は、今も鮮明に覚えている。白い台の上に、細長く畳んだ薄い水色の布が少しずらすようにして折り重ねられ、その上に2本のひまわりを活けたステンレス製の水差しが載っていて、周囲には色とりどりの紙テープが配されていた。美大受験ではおなじみの、水彩絵具による「静物着彩」

がある。

大学では、岩絵具の扱いの難しさに苦心しつつも、制作を重ねるごとに、その奥深さに魅せられていった。しかし、共同アトリエではさまざまな画材が使われるため、防毒マスクを手放せず、絵は狭い下宿先で描いて講評時に持ち込むようになった。寝る間も惜しんで制作を続けた。何より使える絵具があることがありがたく、描けることがうれしかった。

しかし負の蓄積は少しずつ進んでいたらしい。次第に体調が悪化し、やがて有機溶剤だけでなく、柔軟剤を皮切りに香料や印刷物のインクにも反応するようになり、ついに制作途上の絵の前で動けなくなっているところを家族に救い出された。治療の手だてもなく、いつ治るのかもわからないまま、長く自宅で療養した。以前と同じ生活を送れるようになったのは、それからほぼ1年後のことだ。

今では、アレルギー体質は残っているもののすっかり恢復し、むしろ学生時代より改善して、油絵の展覧会でも古いものなら問題なく行けるようになり、フランスに留学もしてたくさん美術館や博物館を回った。この数年は、母校の非常勤講師として、5代目の防毒マスクを携え、かつてはほとんど行くことが叶わなかったアトリエで、学生たちとの時間を過ごしている。

膠と岩絵具は、私に色と質感を楽しむ喜びを与えてくれた。おかげでつらい時期を乗り越えることもできた。しかし制作に伴う厳しさはこれからも続く。岩絵具の粒子が放つ光を信じて、平坦ではないその道の先を見つめていきたい。

画家 堀江 栞
ほりえ しおり



撮影：若木信吾

時の調べ Essay

略歴

1992年生まれ。多摩美術大学卒業。第27回五島記念文化賞VOC A展2022佳作賞、第32回タカシマヤ美術賞受賞、第6、第9回東山魁夷記念日経日本画大賞展入選など。神奈川県立近代美術館鎌倉別館、大川美術館、世田谷美術館の企画展に参加。画集『堀江栞 声よりも近い位置』（小学館刊行。書籍の装画も手掛ける。